



しらやま

白山小学校だより No.30

令和2年11月16日

☆☆☆ コウノトリふれあい学習 ☆☆☆

12日(木)、くちばしの折れたコウノトリ「コウちゃん」が飛来してから50周年を記念し、コウノトリふれあい学習が行われました。講師として、本校の卒業生で市農政課職員の前田利博さんをお招きし、当時の保護活動の様子などをお聞きしました。その後、5年生が敷地内に建っている「コウちゃん」像のお色直しをしました。命を守ることや自分たちの手で環境を守っていくことの大切さが、きっとどの子にも伝わったことでしょう。

「コウちゃん」保護 半世紀

白山小児童 先輩の活動学ぶ

越前市の白山地区にコウノトリの「コウちゃん」が飛来してから12月で50年。これを記念して地元白山小学校で12日、コウちゃんと地域との関わりについて学ぶ授業があった。児童らは、コウちゃんの保護に汗を流した先輩の取り組みを振り返り、その思いを引き継いだ。

コウちゃんは、1970年12月に白山地区に飛来。くちばしが折れていて、うまくえさがとれないことがわかり、心配した白山小の児童らが保護活動に取り組んだ。翌年2月、保護のために捕獲され、兵庫県豊岡市の施設へ移された。その後、子孫を残して2005年に死んだ。

この日は、白山小の卒業生らでつくる「コウちゃんを愛する会」のメンバーで、越前市職員の前田利博さん(60)が全校児童を前に講演し、写真や作文で当時の活動を紹介した。5年生だった前田さんは、ドジョウなどの餌取りに奔走したといい、「コウちゃんを忘れないほしい。人も生き物も元気な白山になるように、大いに学んでください」と語りかけた。

その後、5年生7人が、学校の敷地内にあるコウちゃんの像(高さ約1.2メートル)の色を塗り直した。像は、会のメンバーら



がコウちゃんの思い出を語り継ぐと05年に建てたという。

コウちゃんの像は児童らの手で鮮やかな姿になった。5年の上野孝太郎さん(11)は「コウちゃんや他のコウノトリの家族などについて調べてみたい」。

鳥結亜さん(11)は「コウノトリが暮らせる環境を守っていききたい」と話した。(八百板一平)

コウノトリの「コウちゃん」の像を塗り直す5年生の児童たち(越前市白山小学校)